

「平成30年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【茨城県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	オ、フキ、チョウジロウ 小吹 長二郎
所在地	茨城県石岡市
品種名及び作付面積	オオナリ:約1.9ha
10a当たり収量	706kg/10a
地域の平均単収からの増収	190.9kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(本人、妻)により、水稲2.6haを経営。 ・地域の担い手として、水田作業の受託を行う等、経営規模の拡大に取り組んでいる。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・倒伏しにくく栽培しやすく、「コシヒカリ」より収量が高いため収益が確保できて経営が安定する。 ・平成25年から飼料用米として「タカナリ」等の生産を開始。 ・H29年からJA等のアドバイスにより、耐倒伏性に優れ「タカナリ」の脱粒性を改善した多収品種「オオナリ」を導入。水稲作付け面積の7割強を飼料用米に切り替えた。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・田植:5月22日と5月27日 ・堆肥:ケイフン250kg/10a(1.6ha分) ・基肥:飼料用米専用一発早生用(27-5-3)32kg/10a(窒素8.4kg/10a) ・追肥:8月5日 尿素(46-0-0)10kg/10a(窒素4.6kg/10a) ・一発肥料を使っても、生育状況によって追肥を行う。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・高密度播種育苗(乾粃250g/箱)と疎植栽培(45株/坪)を組み合わせて、苗箱数12枚/10aで移植。慣行比67%に削減。 ・追肥には安価な肥料(尿素)を使用し、肥料費を節減。 ・育苗、田植、収穫、乾燥、調整等の主要な作業を共同で実施。それに用いる機械・施設を近隣農家で共同利用。 ・粃出荷。フレコン出荷。</p>

「平成30年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【栃木県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>ナカヤマ ハルキ</small> 中山 陽樹
所在地	栃木県那須烏山市
品種名及び作付面積	月の光:約2.3ha
10a当たり収量	734kg/10a
地域の平均単収からの増収	170.3kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・水稲12.4haと果樹(梨)3.0haの複合経営。 ・作付け品種は、主食用米:なすひかり1.5ha、コシヒカリ8.1ha、水稲もち0.5ha、飼料用米:月の光2.3ha</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・月の光は、耐倒伏性であること、栃木県知事特認品種であることから、28年産から作付けを開始。また、主食用米終了後に収穫を行うことで作業を分散できることから導入。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・基肥は、基肥一発肥料「ひとふりくん側条055(20-15-15)」を45kg/10a、追肥は、出穂前に尿素10kg/10aと出穂後に「NK202(20-0-20)」を20kg/10aの2回行った。 ・いもち病等の病害予防のため、箱処理剤を使用するとともに、無人ヘリによる病害虫防除を行った。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・JAへの出荷にあたり、自家乾燥・調整によるフレコン出荷を行い、労力削減と包装代等のコスト削減を行っている。</p>

「平成30年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【埼玉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	高橋 徳太郎・喜徳
所在地	埼玉県大里郡寄居町
品種名及び作付面積	夢あおば:約9.1ha
10a当たり収量	604kg/10a
地域の平均単収からの増収	172.4kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・米と花き(植木・花木・鉢物等)の複合経営で、経営面積は約16.3ha(植木・花木・鉢物等約1.3ha含む)。 ・作付面積は主食用米5.9ha(彩のきずな:4.3ha 彩のかがやき:1.6ha等)と飼料用米(夢あおば)9.1ha。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・作付品種:夢あおば約9.1ha(全面積) 取組期間:約10年 ・夢あおばは耐倒伏性で多肥料栽培に適して多収が見込まれ、また脱粒しにくく収穫作業性が高いため選択した。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・田植え1週間前に尿素を苗に葉面散布し、初期生育を促進。 ・鶏ふん堆肥の利用による適正施肥。 ・雑草・病害虫対策の徹底。 ・疎植による分けつ促進。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・鉢物用シャワー式自動かん水施設を利用したプール育苗による省力化。 ・疎植(37株/坪)による育苗箱数の削減。 ・地域の養鶏農家より安価な鶏ふん堆肥を入手して全量基肥施用し、化学肥料の使用量を最小限に抑えることによる経費削減。 ・初期一発除草剤及び箱施薬剤の田植同時処理を行い、本田防除を省略することによる防除経費・労力の削減。</p>

「平成30年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【千葉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>ナカジマ カズアキ</small> 中嶋 和明
所在地	千葉県柏市
品種名及び作付面積	夢あおば:約1.5ha
10a当たり収量	702kg/10a
地域の平均単収からの増収	197.9kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・水稲と露地野菜の複合経営で、経営面積は4.7ha(水稲:3.9ha、露地野菜(ほうれんそう、ねぎなど):0.8ha)。 ・水稲の作付品種は、主食用米(コシヒカリ)2.4ha、飼料用米(夢あおば)1.5ha。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・既に柏市内で取組事例があり、省力化や作期分散が期待されることから、平成28年度から飼料用米(多収品種)に取り組んでいる。 ・作付品種は、倒伏しづらく、多収が見込まれる「夢あおば」を選択した。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・自分で育苗用土を配合し、生育管理を行っている。 ・施肥は基肥と追肥の2回に分け、収量が上がるよう工夫している。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・田植え、施肥、除草剤散布を同時に実施することで、作業の効率化を図っている。</p>